

# ホーム・踏切 自動監視

## 九州エレク、コスト1/5

【北九州】制御機器開発、カメラで撮影した映像を分析して異常を感じる。市販の画像認識ソフトでは誤作動が生じやすく、同様のシステムを構築するには割高な赤外線センサーを使う必要がある。起する仕組みを試作。昨年末から国内の鉄道会社と協力して実証実験を進めたがこのほど実用化にメドを付けた。

九州エレクトロニクスシステム（北九州市、松尾勝憲社長）は鉄道会社向けに駅のホームや踏切の監視業務を自動化できるシステムを開発した。独自の画像圧縮技術を生かした専用ソフトを

今回使った画像圧縮技術は現在普及しているMPEGの十倍以上の大容量データを伝送可能。画質の精度が高く、ソフトによる自動識別でも肉眼比べてコストを五分の一以下に抑えられるといふ。

での自視確認と同程度の分析精度が得られるという。市販の画像認識ソフトでは立ち往生した車や駅舎を見付け出し、アラームを使って周囲に注意を喚出したりできる。電気機器開発のカンノ製作所（北九州市、賀来康人社長）がシステムの施工・拡販を担当して、二〇一〇年度に年間十億円程度の売り上げを目指す。